

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第9回 川西中央北エコまち協議会		
事務局 (担当課)		中央北整備部 中央北推進室 地区整備課		
開催日時		平成27年3月20日(金) 13時00分～15時00分		
開催場所		川西市役所 2階202会議室		
出席者	委員	加藤、松村、牧田、安田、中根、清水、松塚、高見、井上、蟹井、畑中、石田、篠崎、大屋敷、大田、西田、仲下、津賀		
	その他	丸山 (近畿経済産業局)		
	事務局	酒本、北野、半田、藤田 (地区整備課)、尾辻、中塚 (地区推進課) 絹原、中川 (調査機関)		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会あいさつ 2 前回からの動き ・パブリックコメントの実施について ・建築行為等の手続条例運用状況 ・病院公募に係る概要について ・交通部会での検討状況について ・その他地区内での動き (CIの運用についてなど) 3 議事 ①川西市中央北地区低炭素まちづくり計画改定(案)について ②モニタリングについて ③キセラ川西エコまち運用基準について ・改定案について ・ラベリング運用案について 4 今後の予定		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

# 審議経過

## <開会>

### 1. 開会あいさつ

(中央北整備部 酒本部長あいさつ)

- ・協議会も丸3年が経過しました。現場は工事も進み、刻々と変化している。次年度、国の予算がつけば工事の80パーセントが終わる予定で、補償も96パーセントまで来ている。
- ・協議会では1年目に低炭素まちづくり計画の議論を頂き、2年目には運用基準の議論、3年目には交通分野の取り組みを広げるべく計画区域の拡大という変遷を経てきた。
- ・この地区はスケールメリットがなく、地域の特徴を生かすならば小規模な建築物も低炭素化すべく、地権者の方々の意識を変えていくことが重要です。また、中心市街地と当地区がどうつながるか、公共交通で何ができるか本格的に始まる段階にきている。
- ・今日は全体の動きの中から報告しますが、大きな目的は2つ。1つは国も決めきれない中で地区の目標をどう定めるか。もう1つはモニタリングの手法をどうしていくのか。これらに重点をおいで議論頂きたいと思う。
- ・いずれにせよ、できることを積み上げることかと考えている。よろしくお願ひしたい。

### 2. 前回からの動き

#### ○事務局

##### ・資料説明

資料 1-1 建築行為等の手続き条例運用状況について

資料 1-2 病院公募に係る概要について

資料 1-3 交通部会での検討状況について

C I 業務 キセラ川西のPR業務

#### ○会長

- ・医療部会での検討は来年度か。

#### ○事務局

- ・当初は今年度中とも考えていたが、来年度の検討になる。

#### ○会長

- ・当協議会の不作為とならないようご配慮ください。

#### ○委員

- ・事業のPR看板については結構なことだが、今後どうしていくのか。

#### ○事務局

- ・工事進捗によって場所を移していくが、工事が終わった後は未定。

○委員

- ・情報が更新されれば、1度見たことがあっても、見ようとも思うが、例えば工事の進捗写真が入っていたりすると多少興味も持っていただける。手間もかかるが少し工夫をすることで、多くの人々に見ていただけるのではないかと。

○事務局

- ・看板は12月に設置したところだが、今後の活用についてはご意見を参考に部内で考えていきたい。

**3. 議事**

**①川西市中央北地区低炭素まちづくり計画改定（案）について**

○事務局

- ・資料説明  
資料2 パブリックコメント実施結果に関する資料  
資料3 川西市中央北地区低炭素まちづくり計画改定（最終案）

○会長

- ・計画の名称も変更されたので、経過の補足説明をお願いしたい。

○事務局

- ・経営会議で中央地区とすべきとの意見があったが、議会で名称はわかりやすくすべき、また既にキセラ川西という地区名は定着している、という意見を頂き、結果、前回の協議会で審議頂いた名称に戻した。

○会長

- ・計画の名前が変わることは顔つきが変わることであり、周知をお願いしたい。
- ・将来改定することもあり得るが、来年度からはこれが運用計画の基本となる。ご意見が特にないようなので、この案で確定とする。

**②モニタリングについて**

○事務局

- ・資料説明  
資料4 モニタリングについて

○会長

- ・エコ健康診断、実施することは結構だが、名称が気になる。健康診断とエコとは収まりが悪い。何か思い入れがあるのか。

○事務局

- ・あくまで仮名であるが、環境、エコだけだと、親しみをもちにくい。身近にイメージできるものでという思いで、名称を付けた。

○会長

- ・健康でないという前提があるのが気になる。省エネの関係で健康、不健康という概念があるのか。再度検討をお願いしたい。

③キセラ川西エコまち運用基準について

- ・改定案について

○事務局

- ・資料説明

資料5 キセラ川西運用基準改定案について

○会長

- ・基本的な質問だが、指定建築物の説明はどこかに記載されているのか。

○事務局

- ・9ページの表3-2で記載している。

○会長

- ・これは公共施設は入っているのか。

○事務局

- ・入っている。あとはエネルギー使用量が多くなっている温対法対象の建築物も含まれている。

○会長

- ・この用語が頻繁に出て来るが、他にも同様の言葉があるように思うので、分かりやすく伝わるよう配慮いただきたい。

○事務局

- ・追加の修正だが、p15、定量基準の20について、建築手続を進める中で、建物名や店舗名でキセラ川西の名称を使用した場合も評価できるように変更したいと考えている。

○会長

- ・店舗名も含めてサイン（定量基準20）の運用基準項目の中で誘導していくということか。

○事務局

- ・そうである。

○会長

- ・店舗名も評価に追加するというご説明である。
- ・これまでの全体の運用実績状況はどうか。

○事務局

- ・完了報告まで上がっているのは3件。

○会長

- ・運用を積み重ねて、今後問題あれば改定を図っていければと思う。

○委員

- ・CASBEEは頻繁に変更している。変更の都度運用基準の改定は大変だが、どこまで反映させるか。

○事務局

- ・建築物については国も省エネ法による義務化検討も、スケジュールは未定。数年間このままというわけではなく、法改正などで求められるレベルに合わせて修正したい。CASBEEも変更の目安の一つと考えている。

○会長

- ・更新頻度は3年、5年か、あるいは毎年か。

○事務局

- ・CASBEEの以前のバージョンも2010年だったので、毎年改定することはない。一方で省エネ法の見直しとはリンクさせるべきであり、2年後か5年後のペースか。

- ・ラベリング運用案について

○事務局

- ・資料説明

資料6 ラベリング運用について

○委員

- ・建築当初は市が手続条例に基づき指導を行っているが、果たして5年後は誰がなされるのか。住民の方がなされる方が継続性もあると考えるが、お考えがあれば。

○事務局

- ・PFI事業者が実施するモニタリング業務の一環としてできないかと考えている。運用基準においても項目に即してモニタリングする項目を設定している。

○会長

- ・建築時にはチャンスがあるも、5年後も担保するにはどうすればよいのか心配ということである。本協議会はエリアマネジメント組織ではあるものの、評価の責任主体をどこにするのか。具体的な把握はPFI事業者が担うこともあり得る。

○委員

- ・市の関与よりもエリアマネジメント組織が主体的に担う形が理想ではないか。

○事務局

- ・事業完了までは PFI 事業の枠組みが活用出来るが、区域内のエリアマネジメント体制をどこまで詰めるのかは課題である。

○会長

- ・課題として進行管理していかなければならない事項である。
- ・話題が変わるが、本会の名称は川西中央北地区で良いのか。計画にあわせて変える必要はないのか。

○事務局

- ・現在、変更が必要となるか検討中である。

○委員

- ・マンションのパンフレットを見るといよいよ来年に出来上がるという期待感がある。
- ・一方、売り方として、公園や商業施設が近くにあるといった普通のマンションとしての売り文句が目立ち、低炭素のまちづくりを目指すことなどが書かれていない。当地区には環境への配慮ができる人に住んでほしいが、競争力考えると利便性を追及せざるを得ないのか。例えば契約時に低炭素まちづくり計画のパンフレットを渡す、エネルギー見える化システムへの加入を基本とするなどし、この地区が日本でも先進的な場所だと思ってもらわないといけない。キセラ川西は単なる名称ではない。このあたりをどう考えていくのか。
- ・中央公園の使い方をどう運用していくのか。互いに連携しないと、事業者の中だけで閉じてしまうことが良いのか。もう少しプレッシャーをかけていくべきではないか。

○事務局

- ・低炭素について言及したパンフレットはこれ以外にもあるが、働きかけは継続して行う。

○会長

- ・PFI 選定プロセスでそのような条件が付されていなかったか。

○事務局

- ・マンションの計画にはそうした要素が入っているが、実際の指導までは含まれていない。

○委員

- ・コミュニティの一員としての意識をどう醸成するか。非常に難しい内容。

○委員

- ・ラベリングとして評価したものを自宅の表札に掲げられるものができれば良い。マンションに大

きめのプレートを設置し、公開空地越しに見えれば良い。低い評価のものは掲示したがるかもしれないが、住民同士で「あの家は星がついていないね」という形が取れるのが本物だと思う。

○委員

- ・現在所属する大学の校章を頂き、出来る限り身につけるようにしている。そういうことを通して、自分も一員になったという感じがした。住民の方々にもまちの一員であるという意識を持っていただくことは重要。

○会長

- ・過去の検討資料を見る機会があり、それから長い期間が経ってエリマネまでたどりついたことは非常に喜ばしいことで、今後、いいまちにしていけるのかという期待感がある。そのためにもエリマネジメントは重要である。

○委員

- ・質問だが、マンションでも環境学習等について取り組みたいと言っているのか。

○事務局

- ・供用部の集会施設を地域に解放し、環境学習やイベント等を実施したいと考えているようで、そのあたりはPFI事業者と相談しながら考えるということでお話をいただいている。

○委員

- ・マンションの電力は一括で受電しているが、各戸別の成績を表示していくのか。

○事務局

- ・詳細は不明だが、MEMSを備えているということで、その実績値を報告してもらうことを考えている。どういう区分が良いかは検討したい。

○会長

- ・以上の内容をもって本日の議事を終了した。事務局にお返ししたい。

#### 4. 今後の予定

○事務局

- ・計画改定案は、協議会后、年度内の改定に向けて進めていく予定である。改定後、委員の皆様には、正式な計画の冊子をお配りする。
- ・来年度からは、モニタリング方法の検討などに加え、市民普及啓発を目的とした環境学習施策など実施予定である。引き続きご協力をお願いしたい。
- ・1年間ありがとうございました。